# 令和５年度　卒業式　学長告辞

キャンパスのあちらこちらで、春本番を思わせる生命の営みを感じることができるようになり、新たなステージに期待感を抱く季節が到来しています。

本日、晴れて、卒業ならびに修了の日を迎えた皆さん、卒業・修了を心からお祝い申し上げます。今日まで皆さんを支えてこられたご家族の皆様も喜んでおられると思います。
皆さんの新たな門出にあたり、愛知教育大学を代表して、祝福の言葉を述べさせていただきます。

1 つのステージを終え、4 月からの新たなステージに向けて、若干の不安はあるものの希望と期待感に溢れていることと推察します。しかしながら、1 月 1 日の能登半島地震では多くの方が亡くなり、この瞬間も復旧・復興に多くの皆様がご尽力されています。皆さんの中にもボランティアとして出向いた人もいるかと思います。私自身は学生時代より能登は数回訪れたことがあり、思い出深い場所でもあります。1 日も早い復興を願ってやみません。また、復興に携わっておられる皆様に心より敬意を称します。

さて、学部を卒業する多くの皆さんが入学した 4 年前は、コロナ禍当初であり、入学式も行うことができませんでした。大学も休講となり、思い描いていた大学生活とは真逆の様相であり、不安の中で数か月を過ごしたことと思います。私も 4 年前に学長に就任し、人気のないキャンパスを歩き、先が見えない日々を過ごしたことを思い出します。大変な思いをさせましたが、皆さんは、様々な工夫をしたり助け合ったりして各種実習や教員採用試験などの就職活動を乗り切ってくれたことと推察します。その過程で、自分の努力だけでなく周りの方々の支えがあったと思います。また、皆さんの周りには、多様な環境におかれた人々がいます。このような状況を常に心のどこかに留め、自分ができること、配慮しなければならないことを考え、夢に向かって邁進してほしいと思います。

昨年度までは、この卒業式は二部制で実施していました。学部の皆さんはこれまで一度も一堂に会したことはなかったと思います。せめて、最後だけはという思いから、今年度は、卒業生全員でと計画した次第です。

教職大学院及び修士課程を修了される皆さんは、大学院を改組した過渡期でした。特に、教職大学院は、定員をそれまでの倍以上の 120 人とし、コースも増やしました。指導体制も変わりました。新しくなった教職大学院に入学した方は、第 3 期生となります。本学の卒業生は割と少なく、様々な大学を卒業された方々が、新たな風を吹き込み切磋琢磨できたと思います。この 2 年間で築いた関係を教師になっても大切にしてください。修士課程の皆さん

も、前半はコロナ禍で思うような研究活動ができなかったと思いますが、今後も指導いただいた先生方とのつながりを大切にし、機会があればぜひ博士の学位の取得も考えてください。

博士課程を修了され、博士の学位を取得された 3 人は、お仕事をもちながら研究を深められたことに敬意を表すると共に、今後それぞれの研究分野において中核になって活躍されることを期待しています。本日は、帰国され出席されておりませんが、カンボジアからの留学生のティーサブリンさんも博士の学位を取得されています。

特別専攻科を修了される皆さんは、特別支援教育に貢献したいという思いで入学し、研鑽を重ねられ修了されたことと思います。学校現場では特別支援教育の担い手のニーズは、一層高まっています。活躍を期待しています。

今年度の本学のメインイベントとしては、創基 150 周年記念事業であると思います。
愛知教育大学の淵源は、日本の近代学校の発足と期を一にして、明治 6 年 1873 年に、名古屋市に設立された「愛知県養成学校」です。今年度は 2023 年でしたので、そこから数えると創基 150 周年となります。明治 9 年には、「愛知県養成学校」が「愛知県師範学校」となりました。明治 8 年には、「愛知県養成学校附属小学校」が、今の中区と東区にまたがるあたりの久屋町に設立されています。翌年に「愛知県師範学校附属小学校」と改称されています。それが、附属名古屋小学校の前身となります。以後、附属学校も次々にいくつかの校種で開校・開園されてきました。明治 32 年に「愛知県第一師範学校」「愛知県第二師範学校」となり、昭和 24 年、1949 年に「愛知学芸大学」に、そして昭和 41 年に愛知教育大学と改称され、昭和 45 年、1970 年にこの地、刈谷市井ケ谷町に統合移転され現在に至っています。
令和 5 年 11 月 19 日日曜に本学講堂にて記念式典および記念講演会を挙行しました。2 か所にヒガンザクラの記念植樹、記念誌の編纂、記念写真展等を実施しました。また、記念式典の午後には、本学附属学校 6 校の児童・生徒と本学管弦楽団 OB による、記念演奏会を行いました。ご来賓の皆様からは、教育大学らしい式典であったと高評でした。この記念すべき年度に、卒業・修了を迎えられた訳ですので、母校の歴史についても関心をもってほしいと思います。

この 150 年間、本学は先輩諸氏やご支援いただいた皆様のお陰で幾多の困難を乗り越え、附属学校園と共に充実・発展を遂げてきています。学生は、大学で理論を学び、附属学校等で実践力を高め、教員となり、教育界に貢献する。その姿に憧れた子どもたちが、また本学に入学するといったサイクルが、質を高めながら何世代にも渡り回ってきているものと思います。実は私も担任教師に憧れ、教師を志し、本学に入学し、附属学校での教育実習等で実践力を高め、小学校教師になりました。私の小学校教員時代の教え子の何人かも教師にな

っています。ぜひ、皆さんも皆さんの姿に憧れ、教師や教育を支える専門職になりたいという子どもを育ててください。

　では、どんな教師等に子どもたちは憧れるのでしょうか。私は、「人間力」をもった教師等だと思います。

　先にも述べたように、明治の先人たちは、教育を新しい国づくりの礎と考え、近代的な学校制度を整えました。その後、大正、昭和、平成、令和と時代は移り、世界は加速度的に変化し続けていますが、国づくりの根幹は、今も変わらず人づくりです。他方、新しい時代を切り拓くには、高邁な理想を共に抱く仲間、柔軟で斬新なアイディア、協働してやり遂げる強い意志が必要です。また、これからは、知識を得ることより、活用力を身に付けることが重要な社会になります。そのためには、探究型の学習が必要となり、小中学校の「総合的な学習の時間」や高等学校の「総合的な探究の時間」が核になっていくと思います。私は、生活科や総合的学習を専門としており、これまで参観した多くの授業を通して、多くの教師に出会ってきました。優れた授業を展開された先生方は、人間力に溢れた方々でした。この「人間力」を培うには、多様な体験をし、多様な方々と触れ合うことが必要であると考えます。今後は、このような機会を自ら求め、「人間力」を磨いてください。期待しています。

　最後に、4 月から教職に就く皆さんは、一人一人の子どものよさに目を向けることを心がけてください。今回は別の道に進む皆さんもほかの職業等での成長を、ぜひ将来、学校教育に活かしてください。教職を支える専門職に就く人は、教員と協働して未来の教育を担ってほしいと思います。

　皆さんは、卒業・修了されると、私と同様、本学の同窓生となります。どうかここを巣立った後も、本学ならびに同窓会の活動も支えてください。本学での学びを礎に、健康に留意され、教育の未来を共創していく皆さんの可能性に期待して、卒業・修了にあたっての告辞といたします。

令和 6 年 3 月 22 日

愛知教育大学

学長　野田敦敬